

第1回

県立高等学校改革懇談会 『耶麻農業・会津農林』

日時：令和元年 7月24日（水） 14：00～15：30

場所：会津農林高等学校 大会議室

福島県教育委員会

本日の進め方

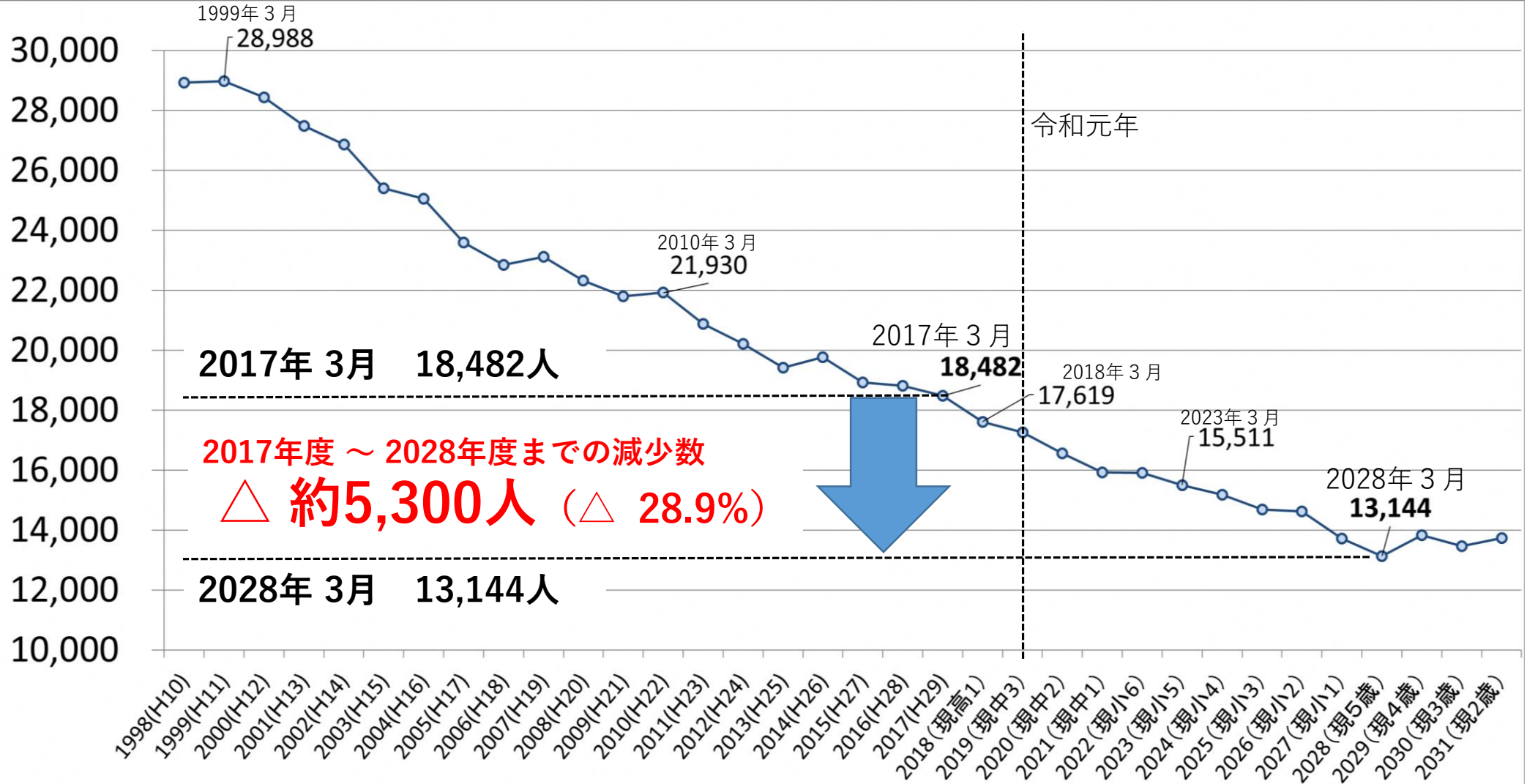
1	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
2	耶麻農業高校・会津農林高校の現在の状況
3	今後の再編整備について

1

県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

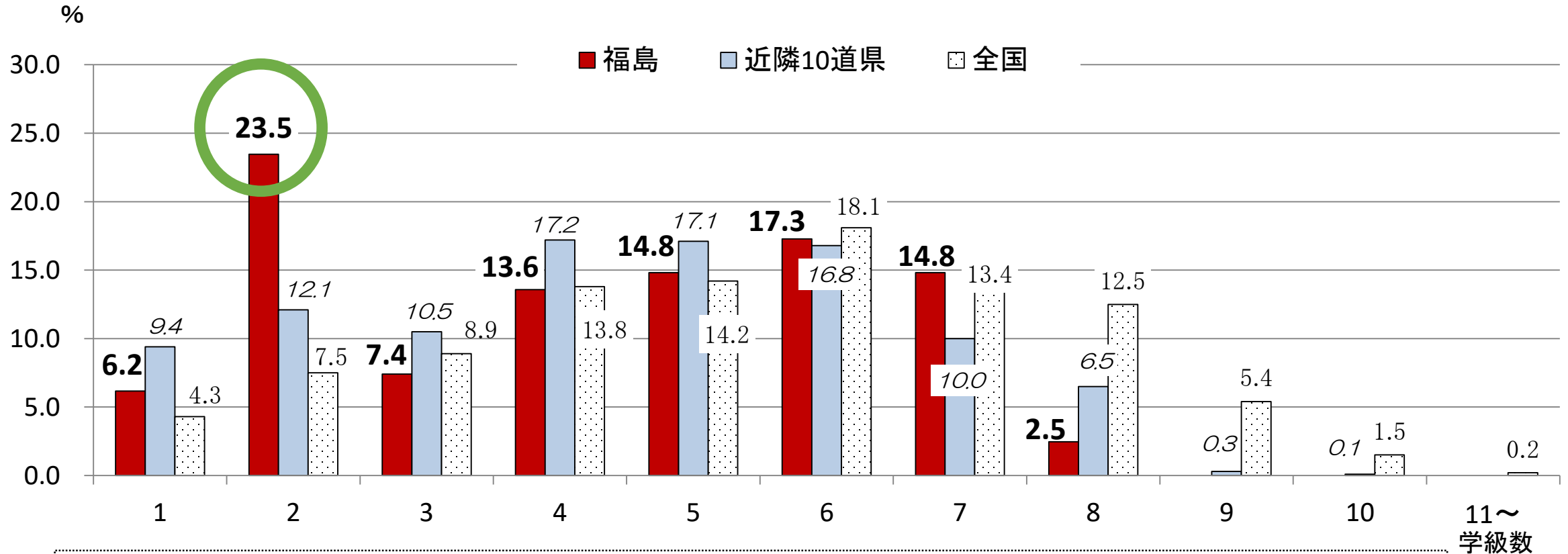


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**（中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少）
- 過疎化・高齡化（地域コミュニティの維持が課題）
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化（例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入）
- 高等学校の小規模化（3学級規模以下の高校の増加）
- 生徒の**学習ニーズの多様化**（学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化）
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
（本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進）



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針 3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進
- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

地域協働推進校

定時制・通信制高校

小規模校のメリット・デメリット

【メリット】

- 学校がある地域の生徒が、負担なく通学できる。
- 小規模校ならではの、きめ細かな指導が可能である。

【デメリット】

- 生徒どうしが、切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことに必要な一定の集団規模の確保が難しい。
- 設置できる部活動が限定される。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択が難しくなる。

再編整備（統合）による効果

○ 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模

- ⇒ 多様な価値観に触れることでより**広い視野**を得られる
- ⇒ 新しい学力観のもと、**探究的・協働的な学び**を充実させることができる
- ⇒ 教員数が確保され、**多様な科目や部活動の選択**が可能となる

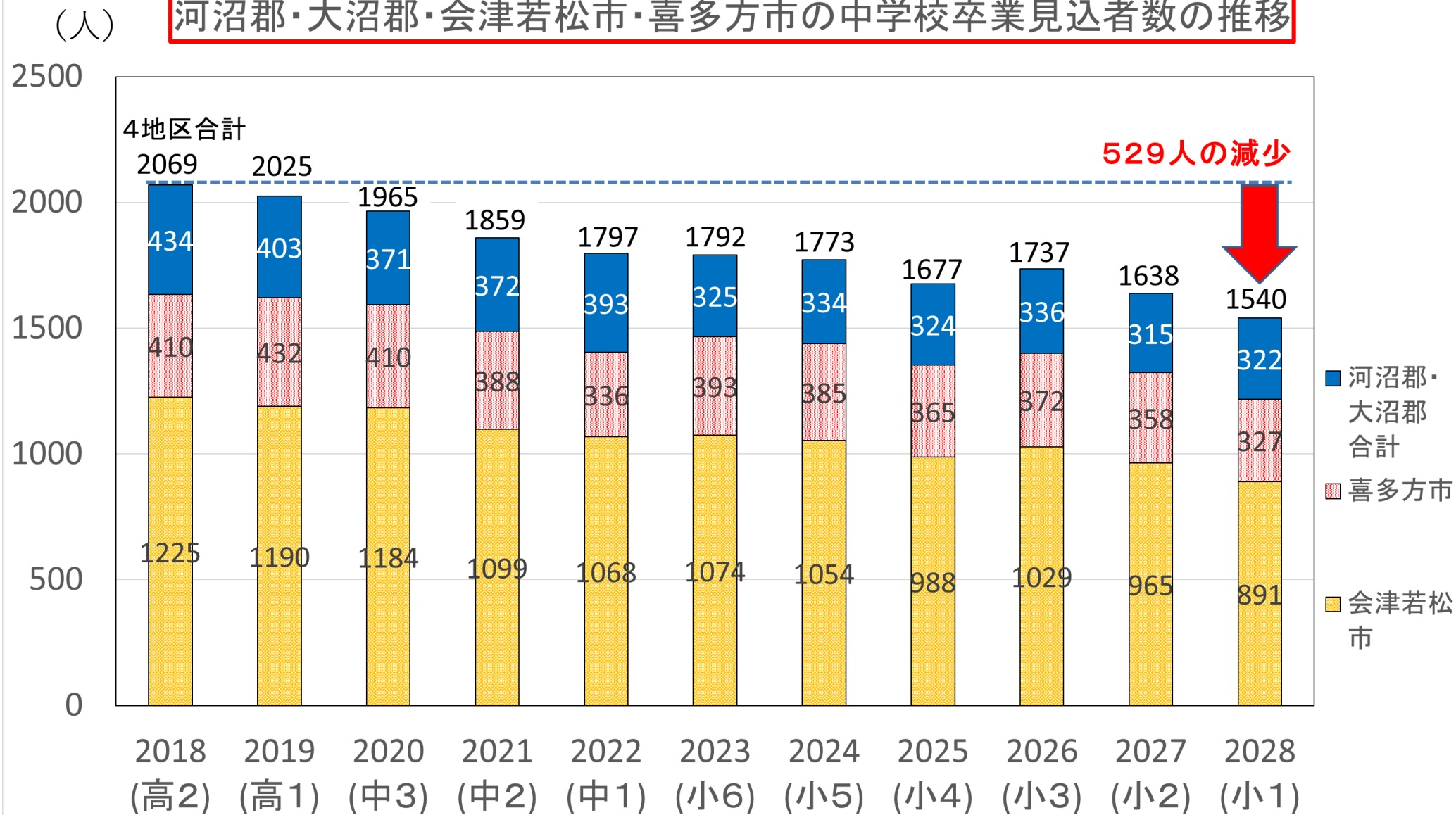
**多様な選択肢を備えた教育内容
多くの仲間や先生との出会いがある高校**

2

耶麻農業高校・会津農林高校の現在の状況

地域の少子化（中学校卒業見込者数の減少）

河沼郡・大沼郡・会津若松市・喜多方市の中学校卒業見込者数の推移



学校の沿革概要等

耶麻農業高校

○ 沿革（創立72周年）

- ・ 昭和23年 4月 福島県立山都高等学校 創立
- ・ 昭和32年 4月 福島県立耶麻高等学校となる
- ・ 昭和45年 4月 福島県立耶麻農業高等学校となる
- ・ 平成29年10月 創立70周年記念式典挙行

○ 設置学科（令和元年度現在）

全日制 1学年 2学級 計6学級

- ・ 産業技術科 1学級
- ・ ライフコーディネーター科 1学級

○ 面積 土地総面積 195093.12m²

学校敷地 67974.38m²
実習地 106173.74m²
学校分収林 20945.00m²

会津農林高校

○ 沿革（創立113周年）

- ・ 明治40年 4月 河沼郡立農業学校 設立
- ・ 大正10年 4月 福島県立会津農林学校となる
- ・ 昭和30年 4月 福島県立会津農林高等学校となる
- ・ 平成28年10月 創立110周年記念式典挙行

○ 設置学科（令和元年度現在）

全日制 1学年 3学級 計9学級

- ・ 農業園芸科 1学級
- ・ 森林環境科 1学級
- ・ 食品加工科 1学級

○ 面積 土地総面積 549438m²

学校敷地 38384.65m² 実習地 158577.49m²
演習林など 387021.86m²

進路状況（過去3年間）

学校要覧より

【耶麻農業高校】

進路先	進学	就職	その他	合計
卒業年度				
30	5	19	0	24
29	11	26	3	40
28	7	29	1	37

【会津農林高校】

進路先	大学	短大・ 大学校	専門学校等	就職	その他	合計
卒業年度						
30	8	5	16	69	1	99
29	6	5	20	60	0	91
28	7	6	16	68	5	102

部活動

【耶麻農業高校】

・運動部

陸上競技 ボート
テニス 卓球
バスケットボール
バドミントン

・文化部

グリーンメイキング
ホームメイキング

【会津農林高校】

・運動部

野球 陸上競技 卓球
バレーボール
柔道 相撲
ソフトテニス バドミントン

・文化部

音楽 学芸 農業 家庭

・特別活動

インターアクトクラブ
早乙女踊り保存クラブ

入学状況

耶麻農業高校

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
募集定員	80														
入学者数	産業技術	13	21	34	31	39	31	25	19	23	32	18	29	24	14
	ライフ	22	21	32	26	29	37	24	22	23	23	14	24	18	22
	合計	35	42	66	57	68	68	49	41	46	55	32	53	42	36
充足率	44%	53%	83%	72%	85%	85%	62%	52%	58%	69%	40%	66%	53%	45%	

入学状況

会津農林高校

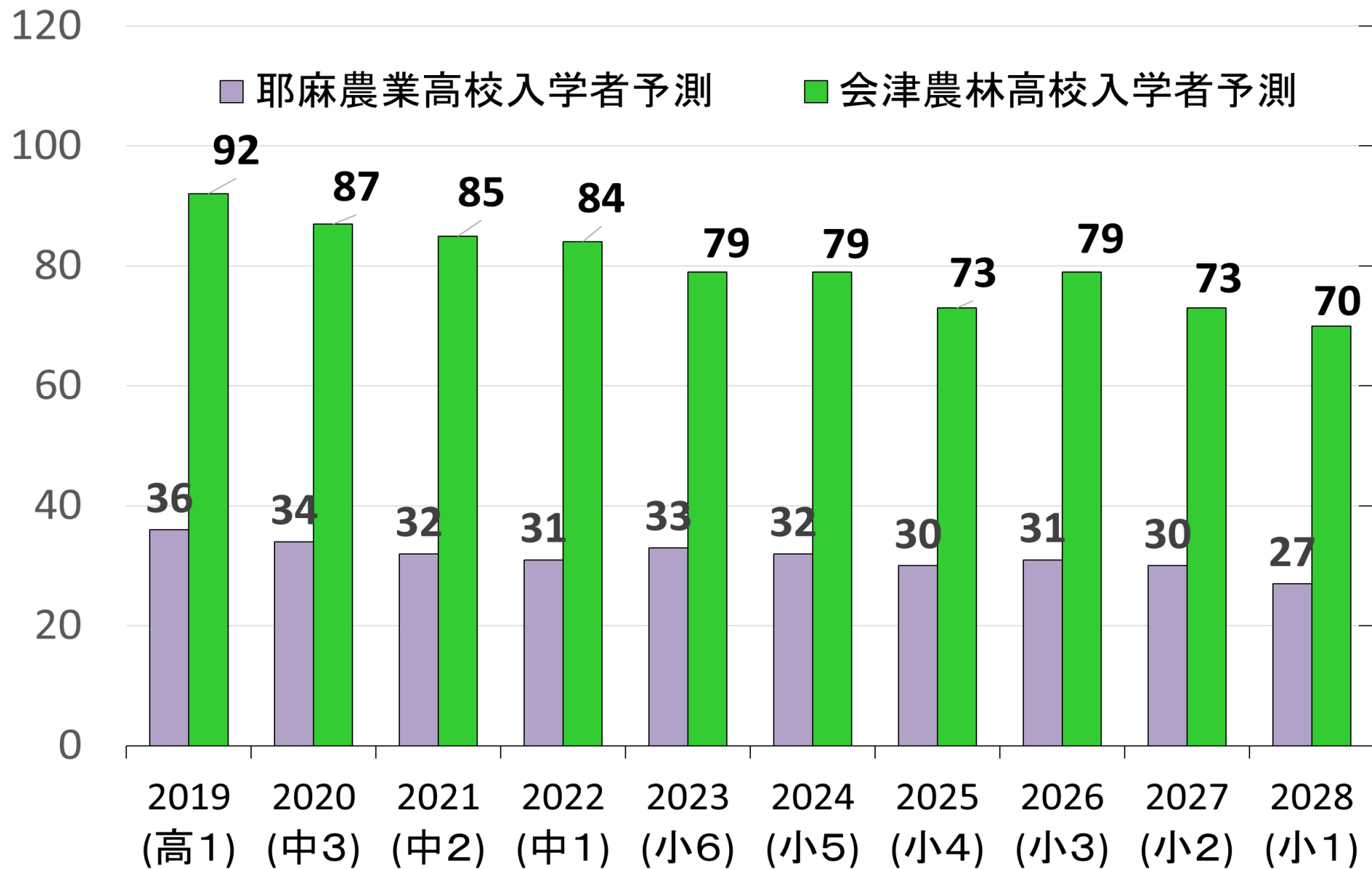
年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
募集定員	160					120									
入学者数	農業	40	40	38	40	40	38	39	37	40	40	40	40	37	39
	森林	40	40	39	40	40	32	35	28	27	27	39	27	23	38
	食品	40	40	40	39	40	40	40	40	39	39	31	37	34	37
	生活	39	38	40	40	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	159	158	157	159	160	110	114	105	106	106	110	104	94	114
充足率	99%	99%	98%	99%	100%	92%	95%	88%	89%	89%	92%	87%	79%	95%	

平成30年度喜多方市・河沼郡・大沼郡・会津若松市の中学校卒業者の高校進学先

	中学校名	卒業者数	進学者数	耶麻農業	会津農林	会津	葵	会津学鳳	若松商業	会津工業	喜多方	喜多方東	喜多方桐桜	西会津	大沼	坂下
喜多方市	喜多方一	96	91	4	0	9	4	3	0	5	27	12	19	0	0	0
	喜多方二	108	94	7	1	5	3	1	4	0	35	5	23	0	0	0
	喜多方三	76	74	4	0	2	3	2	0	3	23	11	19	1	0	0
	塩川	87	83	2	3	6	3	5	4	7	14	1	27	3	0	1
	山都	18	16	3	0	1	0	2	0	1	1	0	5	1	0	0
	高郷	10	10	0	0	3	1	0	1	0	3	0	1	0	0	0
	会北	15	15	1	0	2	0	0	1	0	4	2	3	1	0	0
河沼郡	坂下	165	155	3	31	20	11	8	12	5	7	0	19	2	1	16
	湯川	34	34	1	0	5	8	1	3	1	1	1	4	0	0	1
	柳津	17	15	0	1	1	1	2	1	1	0	0	1	0	2	2
	西山	4	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大沼郡	高田	112	105	0	7	7	15	8	10	15	0	0	0	0	31	1
	本郷	44	43	0	2	8	9	4	4	4	0	0	0	0	4	0
	新鶴	34	34	0	4	5	3	1	1	5	1	0	0	0	1	0
	三島	8	8	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	1	2
会津若松市		1235	1171	13	40	140	144	178	108	159	3	5	32	3	39	10
合計		2063	1952	38	90	215	206	217	150	206	119	37	153	11	80	34
進学者に対する割合(%)				1.9	4.6	11	10.6	11.1	7.7	10.6	6.1	1.9	7.8	0.6	4.1	1.7

耶麻農業高校・会津農林高校入学者数予測

耶麻農業高校・会津農林高校入学者数予測者数
(人)



3

今後の再編整備について

統合校の方向性

耶麻農業高校

- 産業技術科、
ライフコーディネート科
(定員80名：2学級)

会津農林高校

- 農業園芸科、森林環境科、
食品加工科(定員120名：3学級)

2023年4月開校予定

耶麻農業・会津農林統合校（仮称）

農業科4学級規模（定員160名）

場所：会津農林高校

統合校のイメージ

耶麻農業・会津農林統合校（仮）

地域の未来を担う人材を育成

「会津の農業拠点校として、地域に根ざした生徒を育てる」

職業教育推進校

- 農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動により地域産業を支える核となる「職業教育推進校」に位置づけ

6次産業化に対応できる人材育成

- 食料生産に必要な知識・技術を習得、米や伝統野菜栽培でのグローバルGAP認証取得
- 林産物の加工や生産及び発酵等の食品加工技術を活かした商品開発・農福連携等の教育活動
- 大学や研究機関との連携による専門的な学び

地域への貢献

- 伝統野菜作り、そば打ちや発酵・醸造の技術など会津の農業資源の継承発展に寄与
- 駅前での花のオブジェ作成、御田植祭への参加といった地域との連携

検討する統合校の特色化の例

大学・研究機関との連携

会津の豊かな農業資源の
継承発展に寄与する学び
・伝統野菜、そば、発酵、醸造

専門的、実践的な
知識・技能の習得

グローバルGAP認証取得

地域の伝統文化を
継承する活動

今後の予定

会議等のスケジュール

第2回改革懇談会 年度内

第3回以降 必要に応じて開催

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会（両校の教職員で構成される検討委員会）
- ワーキンググループ（各校の校内検討委員会）